

須 恵 町 議 会 所 管 事 務 調 査 報 告 書

須恵町議会 議長 松山 力弥 殿

閉会中の所管事務調査を行ないませんので、下記のとおり報告いたします。

報告日：令和 7年 8月 21 日

報告者：文教厚生委員会 男澤 一夫

委員会名	出席委員
文教厚生委員会	男澤・白水・三上・川原・平山、（松山議長）
所管課	説明者
子育て支援課	稲岡課長・朝比奈課長補佐
調査事項	子ども・子育て支援事業について
調査概要	<ul style="list-style-type: none">・第3期須恵町子ども・子育て支援計画の策定について・子ども・子育て支援計画の位置づけ・計画期間・計画の対象について・須恵町の子ども・子育てを取り巻く現状について・第3期計画の基本的な考え方「こどもまんなか笑顔輝く未来へつなぐまちづくり」について・こどもの健やかな成長を切れ目なく支えるまちづくりについて・困難を抱えるこども・若者を支えるまちづくりについて・こどもや若者、子育て家庭を支える地域づくりについて・病児保育事業終了について
主な質疑応答	<p>1, Q) 子育て短期支援事業で、一日あたりの見込み人数、令和7年度から令和8年度は、国の手引きによる算出方法では2倍以上になっているが、施設数確保は3施設のままである。他町の施設で供給体制を確保となっているが、今現在での取り組みの進捗状況を尋ねる。また施設数は来年度までに確保は可能か。</p> <p>A) 計画策定時に定期的に利用されている人が2名いる。2人がそれぞれ月7日利用するとして、12ヶ月をかけた数が168日。利用が見込まれる最大の数を計上している。施設数については、令和7年度は1施設減って2施設である。町内の小規模住居型児童養護事業所でショートステイができないか検討していく予定だが、今のところ施設を増やす見通しは立っていない。</p> <p>2, Q) こども誰でも通園制度で、ニーズ調査結果や、必要受入れ時間数、必要定員数を検討して、R7年度より見込みで数を出しているが、申し込みが見込み以上の場合の対応を尋ねる。</p> <p>A) 現時点では、れいんぼー幼児園で事業開始の予定です。5名の枠を確保できそうなので、現時点では充足する見込みである。枠を超える申し込みがあった場</p>

	<p>合、枠を超えての受け入れはできないので、利用申し込みの際に、説明しご理解をいただくことになる。</p> <p>3, Q) こどもの地域行事への参加促進について、こどもの地域行事への積極的な参加や、地域との交流を促進しての現状とその効果はどうなっているのか。</p> <p>A) 地元の高齢者など、地域の方々、小学生などとの交流事業を行う際の、事業経費を補助金として交付している。具体例として、①各校区コミュニティのまつりへ参加、②年長児と小学5年生との交流、③高齢者施設への慰問、更生保護女性会との交流、④野菜の植え付け収穫、⑤高校生との交流、地域の方々や小学生などと交流を行うことで、子どもたちは人との関わり方を学び、新たな経験や知識を得ることができ、精神的な活性化に繋がっていると報告を受けている。特に年長児と小学生との交流は、小学校を知り、小学校への親しみを感じることで、小学校接続への一助となることが期待できる。</p> <p>4, Q) 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）はR7年より取組んでいる事業であるが、現地点での子育ての手助けをしてほしい人（願い会員）、手助けをしたい人（まかせて会員）それぞれの人数は。</p> <p>A) 委託事業としてシルバー人材センターが行い、6月に会員講習会を開催し、願い会員6名、まかせて会員7名、両方会員3名である。</p> <p>今後も会員が増えるようホームページ等で積極的に周知していく。</p>
<p style="text-align: center;">所 感</p> <p>(課題や議会の考えなど)</p>	<p>第3期須恵町子ども・子育ての支援計画は従来の未就学児や小学生だけでなく若者やポスト青年期（30歳～39歳）まで対象を広げている点は、現代社会において多様なニーズを反映させている。</p> <p>子どもや成人、障がいの有無に関係なく、ショートステイなどの一時的預かり先が少し不足しており、保護者や家族に大きく負担がかかっている現状である。</p> <p>今後は、短期宿泊の受け入れ先としてのショートステイなど、一時的預かり施設の確保にも注力していく考えである。</p> <p>最後に、アンケートやヒアリング調査結果を受け、現状の問題や要望を今後の活動に活かすことが重要である。</p>